令和三年度入学式　式辞

春のやわらかな日差しに、校庭の木々も芽吹くこの佳き日に、令和三年度の入学式を挙行できますことを、心から嬉しく思います。

59 期生 280 名の新入生のみなさん、入学おめでとうございます。私たち枚方高校の教職員はみなさんの入学を心から歓迎いたします。

昨年から、新型コロナウイルスの感染症拡大のため、皆さんも心配したり、十分に楽しい中学校生活がおくれなかったりしたかもしれません。感染は今も続いています。しかし、いつか必ず終息します。そしてこの経験が必ず、その先の社会をより良いものとするのに役立つのではないかと考えます。一緒に乗り越えていきましょう。

さて、皆さんは高校入試という一つの試練を克服し、晴れて今日この日を迎えられました。

これは皆さん一人ひとりの頑張りや努力の成果であることは、言うまでもありませんが、これまで育ててくださった 保護者やご家族の方々、小学校や中学校で指導してくださった先生方など、多くの人々の支えがあったということを忘れてはなりません。皆さんには他の人に対して「感謝や思いやる心」を忘れずに持っていてほしいと思います。

今日からの高校生活の第一歩を踏み出すにあたって、いま申し上げた「感謝や思いやる心」について少し詳しく話します。まず人は一人ではなく、みんなで支え合って生きています。もちろん考え方の違う人もいますし、対立する立場の人もいるでしょうが、それでも相手のことを理解し、常に「感謝や思いやる心」の気持ちを持てる人になってほしいと思います。

それはなぜかというと、グローバル化が加速化しているこの二一世紀は、異なる言語や異なる文化を持つ、多くの人と共に力を合わせて生きて行かねばならない時代だからです。

様々な人と関わり、意見を交わすためには自分の意見を主張するだけでなく、他の人の意見を受け止める「思いやる心」が必要となります。互いの多様性を認め、それぞれの価値観を理解しながら、協力して共に生きていくためには、柔軟な思考力とともに「感謝や思いやる心」が求められます。

そして、自分自身が困ったときは他の人の「思いやる心」に安心して頼ってください。先ほども言いましたが人は一人ではなく、みんなで支え合って生きているものです。保護者や家族、友達や先生方など、周りに必ず支えてくれる人がいるということも忘れないでください。

枚方高校校歌の歌詞にある「颯爽たり」という言葉は「人の姿や態度・行動がきりっとして、見る人にさわやかな印象を与えるさま」という意味ですが、どうか「感謝や思いやる心」をもって、将来、グローバル社会での活躍が期待される「颯爽たる」枚高生として素晴らしい高校生活を作り上げていってください。

保護者の皆さま、お子様の本校への入学に際して、さぞやお喜びのことと拝察申し上げます。生徒の一人ひとりの学校生活を充実させるためには、保護者やご家族の皆さまのご協力が是非とも必要です。今後、皆さまにさまざまなご協力をお願いすることがあると思いますが、どうぞ理解いただきますようお願いいたします

最後になりましたが、保護者の皆様はじめ関係の皆様に、引き続き、本校の教育活動にご理解・ご協力並びにご支援を賜りますよう、お願い申し上げて、私の式辞といたします。

令和三年四月八日　　大阪府立枚方高等学校　　校長　平岡　香子